

## 評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700441
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ保内
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内 1 番耕地 3 2 4 番地
自己評価作成日	平成28年7月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>壁に大きく歌詞を貼り、朝の体操後に歌を歌い、顔を上げて大きな声を出す機会をつくっている。 歌好きな方も多く、「大きな声歌うのはええなぁ」と言ってくれる入居者もおられる。</p> <p>ご家族の面会時などにお話する機会をつくり、ご本人さんがご家族に話された要望などがあれば伺い、援助に活かせるよう取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>前回の外部評価後から外出する機会を増やす取り組みをすすめている。今春からは、行事担当職員が計画を立て、職員の勤務を調整して支援に取り組んでいる。職員の意見、提案で、今年3月に中庭を改修し、スロープを設置した。野菜の世話をしたり、テーブルを出して昼食やおやつを食べたりして楽しんでいる。散歩する方もいる。</p> <p>毎月の事業所便りのほかに、担当職員が利用者の日々の様子を手紙で伝えている。前回の外部評価後から、運営推進会議議事録と家族からの要望に沿って献立表も送付している。年1回行っている家族会は、家族と職員との交流を目的として行っている。</p> <p>災害避難時には、利用者の身元が分かるようにカードを作っている。カードは身に付けることになっており、表に事業所名と連絡先、裏には利用者の氏名を記載している。</p>
---

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ保内

(ユニット名) B棟

記入者(管理者)  
氏名 篠原 初美

評価完了日 平成 28年 7月 21日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホームで作成した運営理念を基に、意識しながら実践できるよう行動している。	
			(外部評価) 「地域 家族 ホーム間における相互のふれあいを大切に、笑顔あふれるその人らしい生活を支援する」という理念を玄関に掲げており、スタッフ会では、地域や家族との関係作りの取り組みについて話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 外出時に会う人には、必ず挨拶をするよう心掛けている。運営推進会議にも、地域の方に参加していただいている。	
			(外部評価) 回覧板を利用者と一緒に回しており、地域の方とあいさつしたりおしゃべりしたりして顔なじみになっている。運営推進会議に参加してくれていた元区長の方が、季節の花を定期的に届けてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 高校生の実習施設として、実習受入れを行っている。他にも学生の体験学習の受入れも行っている。地域住民に向けての働きかけは行えていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、意見交換の場を設けている。その場での内容は全職員にも報告し、サービス向上につなげられるよう活用している。</p> <p>(外部評価) 会議には、利用者や家族、民生委員や区長、日赤奉仕団の方等の参加がある。参加者にボランティアを紹介してもらったり、そのボランティアの方が他ボランティアを紹介してくれることもある。事故・ヒヤリハット報告を行い状況説明をしたり、実際に設置した「人感センサー」を見てもらったりした。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 指定更新の時など、状況報告を行っている。サービス提供において不明な点などある場合は、市担当者に連絡し、相談している。事故発生時も、すぐに状況報告を行い、事故後の対応についても随時報告している。</p> <p>(外部評価) 市内のグループホームが集まり、年4回、「地域密着型介護サービス連絡会議」を開催し、情報交換を行っている。テーマによっては、市の担当者が講師への依頼をしてくれることがある。介護相談員を受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 不穏行動や帰宅願望などの行動のある入居者がいる時には、その都度状態に合わせて対応を検討し、身体拘束につながらないようにしている。スタッフ会や勉強会で、身体拘束をしないように話し合う機会もある。</p> <p>(外部評価) 毎月、事故やヒヤリ・ハットの傾向を探りながら、事故防止策について職員間で話し合っている。一人で外出する利用者には、職員がそっと見守り付き添って対応している。転倒を繰り返す利用者には、人感センサーを使用しながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会や勉強会で、再確認のため話し合いを行っている。 法人の研修にも、今年度中に全職員が参加する予定になっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際に利用されている入居者はなく、職員が関わったことはない。名称は知っているが、実際にはどのようなことを行うものなのか、理解・説明できる職員はほぼいない。 スタッフ会などで勉強し、実際に必要となったときにスムーズに活用できるよう、取組が必要。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は施設長が対応し、契約書に沿って説明を行っている。 できるだけわかりやすい説明を行い、疑問点などにもその都度、説明・対応を行っている。 入院時など、その都度契約内容についての確認事項を再度説明することもある。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を、2ヶ月に1回開催し、ご家族の参加もお願いしている。 面会時にも状態報告などを行い会話することで、ご要望などあれば伺い、対応するようにしている。 (外部評価) 毎月の事業所便りのほかに、担当職員が利用者の日々の様子を手紙で伝えている。前回の外部評価後から、運営推進会議議事録と家族からの要望に沿って献立表も送付している。年1回行っている家族会は、家族と職員との交流を目的として行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 施設長には、必要時意見を伝え受け止めてもらっている。代表者には、施設長を通して職員からの意見・要望を伝えてもらっている。全ての要望が通るわけではないが、返答がない時もあるため、通らない場合でも、その理由を教えてもらいたい。	
			(外部評価) 日々、管理者と職員は、意見や提案を出し合い、話し合いながら取り組みをすすめている。職員から出た要望は、管理者が法人に伝える仕組みがある。管理者は、法人からの返答を職員に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度を利用し、取り組んでいる。施設長以上の役職による評価が、どのようになされているかは、不明瞭。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内のあった場合は職員に周知し、参加希望を募っている。本人の希望によるものや、施設長からの推薦により、随時研修参加を進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ホーム単位で、相談し合う機会はある。代表者が取り組んではいない。	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面会に伺って情報収集を行い、その情報をもとにケアプランを作成している。入居後も、職員から関わる機会を多く持ち、本人の意思や要望を把握できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面会時に、可能であればご家族にもお会いしている。 入居契約時にも、施設長・ケアマネなどが話を伺っている。 介護職員も挨拶をして、顔を覚えてもらうようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前・入居時の状態を把握し、施設長や介護職員により、対応を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 無理のない程度で、洗濯物たたみや食器洗い、花の水遣りなど、入居者に合った作業を行ってもらっており、その際には職員から「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会時には、最近の状態をお伝えしており、面会時に入居者がご家族に話されたことなどを教えてもらう事もある。 月に1回、ご家族宛に1ヶ月の状態を伝えるお手紙を担当者が書き、送付している。 病院受診についてはご家族の介助をお願いしている。 本人の状態に合わせた面会頻度などを相談する事もある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族以外にも、友人・知人の方が面会に来られる事があり、「またお越し下さい」とお声掛けしている。 A棟の入居者に知り合いがおられるため、行き来をしてお話をされることもある。 (外部評価) 入居前から参加している集まりに、入居後は、仲間の送迎で参加している利用者のケースがある。職員は、仲間の方に本人の体調等を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ソファを置いて、会話がしやすい環境にしている。 入居者同士の関係性を見ながら、食堂のテーブルの席を変更している。 一緒に行える作業をしてもらい、お互いにできることと、できないことを補えるようにすることもある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後は、他の施設に入居されたり、入院されたりすることが多いため、情報提供が必要な場合など対応している。 契約終了後も、状態が落ち着き再度入居を希望される場合は、本人やご家族と相談しながら対応する。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ひとりひとりの思いや意向を傾聴し把握に努めている。 口頭での意思表示のできない方は、ご家族様に確認する他にも、本人の色々な場面での反応を見ながら、思いや意向を汲み取るようにしている。 (外部評価) おやつや飲み物等を本人が選べるよう支援している。調査訪問時には、利用者に見たいテレビ番組を聞いて点けていた。家族からの情報は日々の記録に色を変えて記入しており、職員間で情報を共有している。事業所は、言葉だけでは把握できない利用者の思いを支援につなげることの難しさを感じていた。	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人からも聞いてみてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家業(職業)や家族構成などを伺い、生活歴や暮らしぶりを把握している。 又、入居前のサービス利用の把握にも努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1日の過ごし方や有する力は日々の観察から、心身状態はバイタル測定や全身観察、入居者との会話から把握するよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に1度、担当者がモニタリングを行っている。 月に1回、B棟職員が集まり、ケア検討会を行っている。 ケアプラン更新時には、本人・ご家族から要望を伺い、医療連携看護師にも意見を求め、ケアプランに組み込んでいる。 状態変化のあったときは、即時当日の出勤者で話し合い、対応を検討し、介護記録・申し送りにて他職員に伝えている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族来訪時や電話で要望や意見を聞き取っているが、「お任せします」という方がほとんどのようだ。毎月のスタッフ会時にカンファレンスを行い、利用者個々のケアについて話し合っている。モニタリングは利用者の担当職員が行っている。</p>	<p>介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげていってほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子だけでなく、いつもとは違う状態や本人の発言内容も記録するようにしている。 普段から、職員間で気づきや工夫の意見交換を行い、実践結果も共有しながら全体の統一した意見として介護計画の見直しに役立っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>取り組む姿勢はあるが、現在は当てはまる事例はない。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近隣のGHの夏祭りへの参加・地域の福祉グループの訪問・学生の体験学習の受入れをして、会話したり一緒に活動したりして、共に楽しむ事ができるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 状態に合わせ、2週間に1回程度の主治医による往診を受けている。 毎日バイタル測定を行い、主治医に報告を行っている。 外部医療機関を受診される時は、必要に応じて状態報告やバイタルの経過などを報告するようにしている。	
			(外部評価) 病院受診は、家族が支援しているが、家族の都合によっては、介護タクシーを手配し、受診できるよう支援している。主治医から、検査や他の病院受診を勧められた場合には、家族の都合の良い日を聞き、受診支援をお願いしている。調査訪問時、昼食後には利用者の横で職員2名が薬の確認を行ってから、服薬支援を行っていた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回の訪問時に、入居者の状態や気になっていることなどを相談してアドバイスをもらい、問題解決に努めている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には職員が付き添い、経緯を説明している。入院中も電話をしたり面会に行き、病棟スタッフからの情報収集を行っている。 入院の可能性のある受診前には、事前に病院関係者に状態報告をして、円滑にすすむよう努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期とDrが判断した時点で関係者で話し合いを行い、本人・ご家族との意思疎通を図っている。ホームでできること・できないことも説明し、双方が納得できる支援を行えるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時に、看取りについての指針を説明している。家族は「まだまだ先の事」と考えている方がほとんどのようだ。中には、「ここで見てくれるの？」と質問する家族もある。今後は、家族と緊急時の対応について延命治療の希望等、具体的に話し合う機会を持ちたいと考えていた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時対応の訓練は定期的には行っていない。 急変した時には、A棟職員とも協力し合い、対応した事はある。 皆で定期的に訓練する機会があれば、参加したい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルがあり、訓練も実施している。 勤務によって参加できない職員もあり、今後参加できるように調整する。 訓練の際には、地元消防団にも立ち会ってもらい、ホームの状況を見ていただくようにしている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て、夜間災害や津波想定 of 避難訓練を行っている。消防署の方からは、具体的な対応法や、備蓄品についてアドバイスがある。災害避難時には、利用者の身元が分かるようにカードを作っている。カードは身に付けることになっており、表に事業所名と連絡先、裏には利用者の氏名を記載している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 親しみを込めながらも、丁寧な言葉遣いを心掛けている。 時に、言葉遣いが悪い時があったが、自分で見直し、職員同士の声掛けなどで改善に努めた。 男性入居者が、他入居者の戸を開けて回られることがあり、双方に声掛けを行っていた。	
			(外部評価) 法人主催の「接遇委員会」には担当職員が参加しており、スタッフ会時に内容を報告している。管理者は、「外部から来られた方が不快に感じる言葉遣いをしないように」と職員に話をしている。排泄の声かけは、利用者の耳元で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人から希望があれば聞き、職員から声をかけ希望を伺うこともある。 不満などがあれば傾聴し、対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大体の日々のスケジュールはあるが、入居者に確認しながら、それぞれのペースに合わせて過ごしてもらっている。その日の体調を見ながら、本人の希望を聞いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分でできる人は、自分でされている。自分でできない人は、職員が整髪したり、更衣介助などを行っている。月に1回、訪問散髪にきてもらい、希望者は散髪や顔そりをされている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 嫌いで食べられない物に関しては、別メニューにして対応。本人に合わせた器やスプーンの使用、キザミ食やミキサー食の提供など、状態に合わせた食事を提供している。ゴボウのささがき・もやしのヒゲ取りなどの下ごしらえ、朝食後の食器洗いなど、入居者様にできることをさせていただいている。	
			(外部評価) 法人で作成した1年分の献立表を活用している。利用者からメニューの要望が出ると、献立を変更している。利用者の誕生日には、好みのものを献立に採り入れている。ミキサー食の利用者には、すべてミキサーにするのではなく、刻みやとろみで摂取できるものを把握して食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 「ご飯は軽めに」「飲み物は熱いほうが良い」などの希望によって対応している。水分摂取量が少なめの方もおられ、麦茶だとあまり飲まれない場合などには、アクエリアスゼロカロリーも飲んでもらうようにしている。入浴後の水分補給も行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、義歯洗浄・うがい・歯磨きの声掛けを行っている。入居者に合わせて、粘膜ブラシや舌ブラシを使用している。口腔ケアを拒否される時もあり、時間をおいたり、声掛けを変えてみたりして対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>訴え時には早めの誘導を行い、失禁しないように促している。 拒否時には無理強いせず、タイミングをみて支援している。 本人の脚力や立位保持の状態をみて、オムツ使用の方でもトイレ使用の可能性があれば、トイレ誘導しトイレでの排泄を促している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>トイレの入り口には大きく「便所」と書いた紙を貼り、場所が確認できるようにしている。排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かすることで、パッドサイズを小さめに変更できたようなケースがある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分補給を促したり、ヨーグルトを食べてもらうようにしている。 腹部マッサージを行っている。 朝の体操に、足を動かす体操を取り入れているが、参加されない方もある。 主治医や看護師と相談し、下剤等の調整を行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>湯温や室温など、本人の希望に合わせて援助している。 バイタル測定を行ったうえで、本人の希望も聞き、2～3日に1回の頻度で入浴してもらっている。 午前中に入浴拒否された方は、午後から入浴介助を行うこともある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>車いすを使用する方が多く、現在、ほとんどの方が併設デイサービスのリフト浴を利用している。浴槽で納得いくまで温まれるよう支援しており、長湯の方には、時間を見計らって声をかけている。シャンプー・ボディソープは、家族が用意している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中、体操や歌を歌うなどの適度な刺激を与え、夜間良眠につなげられるよう働きかけている。 部屋の明るさや室温、眠前薬を内服する時間なども、入居者によって調整している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 使用薬や内服量の変更により症状に注意し、気付いた事を主治医・看護師に報告し、指示を受けている。薬情報に目を通し、禁忌食品や、使用方法について把握するよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ひとりひとり無理のないようなできる作業をしてもらい、できるだけ入居者様の意思にそえるよう努めている。見たいTV番組を把握して、観られるよう援助している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員数により散歩や買い物に出かけるようにしている。遠出する際にはご家族にも声掛け・参加してもらい、無理のない外出ができるよう協力してもらっている。 (外部評価) 前回の外部評価後から外出する機会を増やす取り組みをすすめている。今春からは、行事担当職員が計画を立て、職員の勤務を調整して支援に取り組んでいる。職員の意見、提案で、今年3月に中庭を改修し、スロープを設置した。野菜の世話をしたり、テーブルを出して昼食やおやつを食べたりして楽しんでいる。散歩する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお金を所持されている方もあり、日用品などを買う時に自分で支払いをしていただく方もある。外出時など、可能な方にはお金を渡して支払いができる入居者はおられるため、今後対応可能と考える。全体的には、お金を持つことに執着される方はおられず、必要な物は担当職員が購入してくる事が多い。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 耳が遠い事もあり、自分から電話をするという事はあまりない。電話がかかってきたり、手紙・ハガキ等が届いた場合は、本人様に直接渡している。自分で読むのが難しい場合には、職員が代読する。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日の掃除の他に、汚れていたりゴミなどがあれば掃除を行うようにしているが、不十分なこともある。 季節に合わせた飾りを作り壁に飾るなどして、季節感を出すように工夫している。 室温にも注意し、エアコン調整をこまめに行っている。	
			(外部評価) 季節の童謡の歌詞を大きな字で書いて壁に貼り、毎朝、歌詞を見ながら歌を歌っている。又、塗絵作品を飾っていた。調査訪問時、テーブルで熱心に塗り絵に取り組んでいる利用者の様子が見られた。昼食後は、テレビの前のソファーに座り、高校野球を観戦していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファーに座って一緒にTVを見ながら話をしたり、横になって休んでもらっている。ソファーにはクッションや膝かけを用意し、自由に使えるようにしている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族にも、家で使い慣れたものを持ち込んでもらってかまいません、と説明している。お孫さんの写真などを持ってきてもらって飾っておられる方が多い。 室温も、入居者さんに合わせて調整しており、エアコンの調整を援助している。	
			(外部評価) カレンダーを毎月手作りして貼っている。家族に見せるためにカレンダーに来訪者を記録している方がいた。椅子に座り、テレビを見たり、ラジオを聞いたりして過ごす方がいる。冷蔵庫に飲み物を入れて室内で楽しむ方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレには手すりを設置し、1人で行動される時も安全に行えるようにしている。 使う洗面台、口腔ケア用品の置き場所を決めておけば、声掛けだけで自分で義歯洗浄・うがいをされている。 居室前には見やすい位置に名前をつけ、自分で確認できるようにしている。	
			(外部評価)	